

目的 デザイン研究の対象として、色彩・形態・素材は不可欠なものである。
形態の研究の中でも、特に点はその基本的なものであり、幾何学的に考えるなら位置を示すのみだが、家政学に関するデザインの範囲では若干の面積を与えて考える必要がある。
殊にデザインの効果を考え、点の *illusion* を考える場合には、点を他の形態と結び合わせて考えるとよいが、これを如何に結びつけるかという点に研究の重点をおいて考察し実験した。

方法 A 点の *illusion* を考えるため、次のように4つの分類をして作品を試作した。
1). 点の大小と *tension* との関係を考えるための図形 2). 2つ以上の点と *tension* との関係 3). 点と方形、又は円形とを結合させた形 4). 点と色彩との関係を見るために、膨張色、収縮色、進出色、後退色で1)のサンプルを作った。

B 100人の学生にこの標本を示し、実験結果を集計すると次のようになった。

結果 1). 点に若干の面積を与えると小さい円となるが、この大小が *tension* と関係し大きい円が *tension* も大きい。 2). 点の *tension* を考えるため方形及び円形と結び合わせた実験では、一ヶのものより集合させると効果的である。 3). 色彩との関係では、濃色が淡色より *tension* が強い。